

## (6) 大用小学校

学 校 長 弘瀬 利英  
校内研究代表者 山脇 昌代

### 1. 研究主題 「確かな学力を身につけ、ともに学び合う子の育成」

### 2. 主題設定の理由

本校の児童は、豊かな自然と温かい地域の人達に見守られ、明るくのびのびと生活している。少人数の集団の中で真面目に取り組むことができ、友だちにも優しい。しかし、少人数がゆえに、短い会話で意思疎通がすんでしまい、自分の意見や考えをしっかりと言葉にしてみんなの前で発表したり、説明したりすることに課題のある児童が多い。また、他校との交流会ではなかなか自分を表現できないなど、自己表現力やコミュニケーション能力に課題がみられる児童もいる。

全国学力・学習状況調査や高知県学力状況調査等の結果から、国語科の読み取る力に課題が見られたため、一昨年から国語科の授業研究に取り組んできた。全学級での研究授業を行い、西部教育事務所の指導主事に「指導と評価の一体化」について講話をしていただいた。また、予習を生かした授業づくりについても話し合い、説明文・物語文の予習カードを作成することができた。また、ワークプリント集を活用し、基礎タイムなどでことばのきまりや読解の力をつけることにも取り組み、基礎学力の定着に努めてきた。

12月の高知県学力状況調査の結果は国語科、算数科ともに全国平均+10以上を上まわることができた。しかし、分析を行うと国語科の読み取る力に課題が見られた。

このような実態から今年度も国語科を中心とした授業研究に取り組み、児童が自ら学べる複式授業のスタンダードを確立し、「読み取る力」を高めるための取組を行っていく。また、ことわざや慣用句、主語、述語、修飾語などのことばのきまりについては、基礎タイムなどを使って定着を図っていききたい。そして、能力ベースのめあての設定、つけたい力を明確にした授業研究や指導方法の工夫改善に努め、学年に応じた確かな学力の向上をめざしたい。帯タイムも活用し、放課後加力学習と連動させながら弱点の克服にも取り組んでいきたい。

思考力、判断力、伝える力の育成に役立てるよう教科学習と関連づけて研究を進めてきた新聞の活用は、今年度もふるさと教育と関連づけながら、地域に目を向けた学習につなげていく。そして、体験活動の良さを生かして、学校の教育活動を地域に情報発信していける活動としていきたい。

### 研究仮説

- ・ひとり学びやとも学びを授業の中に取り入れ、言語活動を活発に行う授業を展開することで、表現力やコミュニケーション能力が高まるであろう。
- ・指導法の工夫改善を行い、子どもの思考過程や言語活動を明確にした授業づくりを行えば、主体的に学び豊かに表現できる子どもが育つであろう。
- ・丁寧な学習指導を行うことで、基礎基本を確実に身につけることができる。基礎基本が身に付けば、問題文の読解ができるようになり、本校の課題解決につなげることができるであろう。

### 3. 研究の進め方と方法

- ①毎月、原則として水曜日を校内研究日として計画的に研究を進める。  
ただし、研究推進に必要な場合は、臨時に研究日を設定する。
- ②研究日の司会と記録については、職員会の司会と記録同様に輪番制で担当する。
- ③研究の推進や検証に必要な研究授業を計画的に実施する。  
学習指導案を作成し、全教員で研究授業に臨む。
- ④研究授業は水曜日に行い、全教員が参観し、事後研修をその後行う。
- ⑤基礎学力の定着と学力の向上をめざす。

⑥校内研のはじめに、学級の実態について話し、共通理解を図り、児童の情報交換を行う。

⑦指導力を向上させるために、外部講師を招聘して研究の質を高める。

#### ※校内研究推進にあたって共通理解しておくべきこと

①子どもの実態に基づいた教育実践を進める。

②へき地・小規模校の特性が生かせる特色ある教育活動の創造に取り組む。

③教育実践を互いに見つめ合い、検証し合いながら共に教師として高め合う研究をする。

④前年度までの実践を継承すると共に、より良い実践となるよう改善しながら研究を進める。

#### 4. 具体的な取組

##### ① 授業づくり

- ・研究授業（国語科）を全学級が行い、主体的な児童の活動、教師の発問や評価の与え方を研究する。

教科・領域	月日	学年	単元名・教材名・主題名
国語	6月21日	5.6年	5年 動物たちが教えてくれる海の中のくらし 6年 イースター島にはなぜ森林がないのか
国語	11月8日	1.2年	1年 すきなきょうかはなあに 2年 たからものをしょうかいしよう
国語	11月28日	3.4年	3年 人をつつむ形—世界の家めぐり 4年 数え方を生みだそう
全校道徳	10月24日	1～6年	なおとからのしつもん

- ・言語活動を充実する（ひとり学び、ふり返り、授業後の感想）
- ・資質、能力ベースの「めあて」の提示
- ・大用小スタンダードをつかった授業の流れ
- ・国語科の物語文、説明文を中心に予習を行い、それを活用した授業づくり
- ・複式授業等の研究
- ・毎月板書を掲示し交流する。

##### ② 全校活動

作文・新聞朝会、クロッキー朝会を通し、意見や感想などを出させる。

##### ③ 体験活動

縦割り班を活用し、リーダーを育て仲間づくりをしていく。地域の行事（片魚、常六との地域交流・まつり等）では児童主導で活動し、交流をする。

##### ④ 基礎タイム

基礎学力向上をめざし、10分間学習を継続して行う。月・火は国語、水は国語（1.2年）理科（3～6年）、木・金は算数の内容を行う。国語では言語活動や読解を中心に行う。

##### ⑤ 加力学習

期間を設定し、放課後40分程度、全教職員で取り組む。

##### ⑥ 家庭学習

「家庭学習の手引き」をもとに、基礎学力の定着や音読練習、家庭読書、予習、タブレットでのドリル学習等、授業へ向けての学習を習慣化させる。

##### ⑦ ふるさと教育

これまでの行事を基本にしながらふるさとの良さを発見する取組を行う。

講師を招聘し、地域について学習する。

##### ⑧ ノート活用

定期的にノートを掲示し、取組を共有し合う。

##### ⑨ 特別支援教育

全学級と教職員に児童理解学習を行う。

## ⑩新聞活用

- 新聞に興味を持ち、新聞に親しむ習慣をつける。
- ワークホールに新聞コーナーを設ける。（高知新聞）
- 新聞朝会を行う。はがき新聞、学級新聞づくりを行う。
- 読み取った資料をもとに、自分の見方、考え方を広げたり、深めたりする。
- 授業の中で活用する。高知新聞へ投稿する。
- 新聞から表現方法を学び、学習のまとめとして新聞づくりを取り入れる。

## 5. 今年度の成果と課題【 成果（○） 課題（●）】

- 校内研究の取組について提案されたことが、計画的に実施されることで、基礎学力の定着や学力向上につながっている。
- 校内研究計画では、その時に応じて臨機応変に対応もできて良かった。
- 計画的かつ内容も精選され、時間内に余裕を持って校内研を終えることができて良かった。
- 校内研修の開始時刻が早めに設定されているので、議題が多い時でも時間に余裕があって良かった。
- 学力調査の分析に関わって、全教員で課題や方策について共有ができており、日々の学習へとつながっている。
- 全学級が授業研究を行い、高学年までにつけておくべき力や授業における目指す児童像をイメージできた。
- 他の学年の授業を参観できたことで、児童との関わり方や授業中の声掛けなど学ぶことができた。
- 先生方の授業を見る機会は少ないため、校内研で見られてよかった。また、自分の授業を見ていただく機会があることで、学びにつながった。
- 複式授業が初めてで分からなかったが、他の先生方の授業を見て学ぶことができた。
- 授業づくり講座に向けて教材研究からみんなで考えることで、多様な考え方、捉え方にふれることができ、それが勉強になった。
- 授業づくり講座で、指導案検討や評価の仕方など大用小だけでなく、他校の先生方の意見や解釈を聞くことができ、勉強になった。
- 小中合同校内研では、卒業生の授業の様子を見ることができたり、中学校の先生方と教科の内容等情報交換ができたことで、連携をとることができた。
- ICTの活用方法について校内研修ができたことも含めて、日常的な情報交換により、活用の幅が広がっている。
- スマイルノートの活用方法の研修を行い、ICT活用推進に向けて取り組めた。
- リモートでタブレット研修ができて勉強になった。
- 若年教員の育成を考え、教材研究から全員で行う取組が年に1学級はできると、若年教員だけでなく、みんなの教材の見方・考え方が鍛えられていくと思う。
- 指導案検討は全員で行っているが、意見が一部に偏ってしまう。いろいろな意見を出し合うことで学びになると思う。
- 予習を授業に生かす取組について、予習カードをどのように活用しているか共有したい。
- 分掌業務の忙しい時期と授業研が重なったため、時期を考えて計画を立てたら良いと思う。
- ICTの研修や他の先生がどんな場面でICTを活用しているのかを共有する場を設定したらよい。
- 全校で、統一、共有して取り組めることを校内研究で行えば、意識が高まり、更に良かったのではないかと。（例えば、漢字や読解など）
- 中村中学校との交流をどのように行っていくかを考える必要がある。